

竹居
照芳

日本経済の 課題を 読む

税務経理協会



112
D202
595

竹居 照芳

日本経済の 課題を 読む



58AA94/05

税務経理協会

1997年 3月 25日

RB

著者紹介

たけ い てる よし
竹 居 照 芳

1939年愛知県生まれ。62年東京教育大学文学部卒業、日本経済新聞社に入る。証券部、産業部の記者やデスクなどを経て、84年から論説委員。「石油はどうか」(共著、日本経済新聞社)、「収益構造は変わった」(編、日本経済新聞社)、「商法改正——会社はどう変わる」(編著、日本経済新聞社)、「インサイダー取引規制」(著、教育社)、「ごみ問題解決の糸口」(共著、ぎょうせい)、「財務諸表100の常識」(共著、日本経済新聞社)、「環境の世紀 日本の挑戦」(共著、日本経済新聞社)などがある。

著者との契約により検印省略

1996年9月1日 初 版第1刷発行

日本経済の課題を読む

著 者	竹 居 照 芳
発 行 者	大 坪 嘉 春
製 版 所	株式会社アイディ・東和
印 刷 所	税経印刷株式会社
製 本 所	三 光 社 製 本

発 行 所 東京都新宿区
下落合2丁目5番13号

株式 税務経理協会
会社

郵便番号 161 振替 00190-2-187408 電話 (03) 3953-3301 (編集部)
FAX (03) 3565-3391 (03) 3953-3325 (営業部)

乱丁・落丁の場合はお取替えいたします。

© 竹居照芳 1996

Printed in Japan

本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著者及び出版社の権利侵害となりますので、コピーの必要がある場合は、予め当社あて許諾を求めて下さい。

ISBN 4-419-02612-X C2033

はじめに

バブルが崩壊してからの日本経済は、明らかに、それ以前の成長経済の時代とは違います。バブルの後遺症に足をとられながら、多くの企業が円高のもと、世界的な大競争（メガ・コンペティション）に立ち向かうための自己改革に懸命です。同じ経済界でも、既得権益にしがみついている業界、企業があります。かたや、自由競争の波にさらされることのない政府は、第二次大戦後の経済復興から高度成長を経ての「成功体験」から容易に抜け出せず、日本経済の構造転換を妨げています。二十一世紀に日本が、所得が増えなくても充実した生活を送れる成熟した先進国になれるか否か、それはまだ経済余力のある今後の数年間のうちに、日本経済がどれだけ自己変革をとげられるかにかかっています。本書は、そうした問題意識に立って、激動する現代日本経済を理解しやすいように大きなテーマに分けて、できるだけやさしく解説したつもりです。

たまたま、四年ほど前から、ある大学の経済学部で大勢の学生に「経済時事問題」を講義しています。対象は全学年の学生ですが、大半が一、二年の学生です。入学したての学生に理解してもらえるようにしなければならぬし、卒業、就職を控えた四年生の学生にも興味を持っ

て聞いてもらえる内容にしなければなりません。しかし、その時々大きな経済問題を理解してもらうには、その歴史的背景などを含めて話す必要があるのに、限られた時間では容易ではありません。このため、大勢の学生諸君にできるだけ理解してもらうには、何か参考になる本があればいいなと思ったことがしばしばありました。そんなことが、本書を出版するきっかけです。学生の皆さんだけでなく、社会に出てまだ日も浅いヤングや、経済にうーっと思ひ込んでいる年配の方たちにも役立てれば幸いです。

この本では、時事経済問題の単なる解説にとどめず、著者の見解を書き込んでいます。これは日頃、新聞の社説を書いている関係で、つい意見を言いたくなるからですが、あくまでも著者の私見です。また、広範囲な問題を取り上げているので、誤りがないとは言えません。読者の指摘をいただきたいと思っています。

なお、本書にはさまざまな時事用語が登場します。いちいちの細かな説明はしていませんが、わからないときは、用語辞典などで調べていただくと理解が進むでしょう。

一九九六年五月

著者

- 経済体制と経済政策 丹羽 春喜著 A 5・2,900円(〒380)
- 価値の社会経済史 寺尾 誠著 A 5・4,500円(〒380)
改訂版
- 戦後日本通商政策史 白石 孝著 A 5・3,914円(〒380)
- 経済政策原理 五井 一雄著 A 5・3,300円(〒380)
3訂版
- 経済政策と公企業 赤澤 昭三著 A 5・2,500円(〒310)
- 技術情報の経済学 永井 四郎著 A 5・2,900円(〒380)
新古典派技術進歩理論を超えて
- 経済発展論 影山 信一著 A 5・3,500円(〒380)
自動車産業の技術革新と国際化
改訂版
- 新・経済事情 山村昭七郎著 A 5・1,545円(〒380)
改訂版
- 経済変動と技術革新 高島 忠著 A 5・2,987円(〒380)
- 国際経済論 山本 新一著 A 5・2,700円(〒380)
- 現代世界経済論 金子 敬生 編 A 5・2,900円(〒380)
片岡 幸雄
- 現代経済学の展開 仲宗根誠 編 A 5・8,137円(〒450)
相原 正 眉山孝金 編
白井正敏
- 消費経済学総論 日本消費 編 A 5・3,500円(〒380)
経済学会
- 中国における労働市場問題 塚本 隆敏著 A 5・2,700円(〒380)
- 論攻韓国経済論 沈 晩燮著 A 5・3,502円(〒380)

-
- | | | |
|--------------------------|--------------------------|------------------|
| セミナー 経済学入門 | 石橋 春男 共著
関谷喜三郎 | A 5・3,500円(〒380) |
| | 改訂版 | |
| セミナーマクロ経済学入門 | 石橋 春男 共著
関谷喜三郎 | A 5・2,900円(〒380) |
| 資本と利潤 | 石橋 貞男 著 | A 5・2,900円(〒380) |
| 現代交通論 | 池田博行 編著
松尾光芳 | A 5・2,800円(〒380) |
| 経済学における
ダイナミカルシステムの理論 | 大和瀬達二 著 | A 5・5,665円(〒380) |
| 交通経済の理論と政策 | 永田元也
細田繁雄 共著
上遠野武司 | A 5・2,700円(〒380) |
| 新版 現代の交通経済 | 伊藤 允博 著 | A 5・2,700円(〒380) |
| 現代海運論 | 篠原陽一 編著
雨宮洋司 | A 5・2,900円(〒380) |
| 現代の港湾 | 徳田欣次 編著
柴田悦子 | A 5・2,700円(〒380) |
| 現代経済学入門 | 清水忠直
坂本吉良 共著
永井四郎 | A 5・2,900円(〒340) |
| 現代の流通経済 | 伊藤 允博 著 | A 5・2,900円(〒380) |
| 資本の世界史 | 経済政策要綱
渡辺 昭 著 | A 5・2,500円(〒310) |
| 証券経済論 | 鈴木 芳徳 著 | A 5・2,800円(〒380) |
| 証券市場論 | 津村 英文 著 | A 5・2,800円(〒380) |
| | 改訂版 | |
| 新版 店頭登録のすべて | 太田昭和
監査法人 編 | A 5・3,400円(〒380) |
-

経済学（経済原論）参考書

やさしい経済学 海野 文雄著 A 5・2,400円(〒310)

経済学入門 清水忠直編著 A 5・3,200円(〒380)

現代経済学概論 和田 禎一著 A 5・3,100円(〒380)
—理論と政策への序説—

現代経済学総論 中本博皓^{他共著}
千葉康弘^著 A 5・4,500円(〒380)

ケインズと現代 福岡 正夫^著
早坂 忠隆^著 四六・1,960円(〒310)
根岸

経済学の基礎 中本 博皓著 A 5・1,957円(〒310)
—ケインズ体系への接近—

経済学の基礎理論 種岡 輝雄著 A 5・2,900円(〒380)
改訂版

マクロ経済学入門 中本 博皓著 A 5・4,500円(〒380)

基本マクロ経済学 村田 光義著 A 5・2,900円(〒380)

現代の経済とミクロ経済学 中本 博皓著 A 5・2,900円(〒380)

現代経済学講義 沈 晩燮著 A 5・3,800円(〒380)

近代経済学 中村 壽雄著 A 5・3,300円(〒380)
新版

アジア太平洋の経済発展 都野尚典編著 A 5・3,200円(〒380)

数値例による
近代経済学基礎演習 中本 博皓著 A 5・3,000円(〒380)
増補改訂版

企業経済の計量分析 富田 輝博著 A 5・2,900円(〒380)

-
- | | | |
|----------------------------------|-----------------|------------------|
| アメリカ反トラスト法判例の研究 | 江上 勲著 | A 5・5,000円(〒380) |
| 人材派遣と労使の課題 | 小井土有治著 | 四六・1,700円(〒310) |
| 人材派遣業法
改訂版 | 小井土有治著 | 四六・1,236円(〒310) |
| 労働者派遣法の実務 | 漆沢 健著 | 四六・1,339円(〒310) |
| 外国人労働者 | 小井土有治編著 | 四六・1,600円(〒310) |
| だれでも
できる 会社設立と組織変更
改訂版 | 工藤 勇治著 | 四六・1,700円(〒310) |
| 新労働時間法
—改正労基法と時間— | 小井土有治著 | 四六・1,236円(〒310) |
| いちばんやさしい
契約書の見方・作り方 | 野口 恵三著 | 四六・1,236円(〒310) |
| 知的所有権と営業秘密の保護
改訂版 | 大矢 息生著 | 四六・1,900円(〒310) |
| 企業法務の常識
—220のチェックポイント—
改訂版 | 大矢 息生著 | 四六・1,900円(〒310) |
| 会社役員の法務常識
—リーガルリスク・マネジメントのすめ— | 大矢 息生著 | 四六・1,900円(〒310) |
| 営業マンの焦付きゼロの
取引先管理の営業法務 | 大矢 息生著 | 四六・1,800円(〒310) |
| 売掛金回収 | 大矢 息生著 | 四六・1,600円(〒310) |
| よくわかる
不動産運用のエッセンス
改訂版 | 鈴木 豊共著
金井 泰彦 | 四六・1,400円(〒310) |
| 中小企業のための
P L いざ! のとき | 瀧澤 正雄著 | 四六・1,600円(〒310) |
-

-
- | | | |
|------------------------------|-----------------|------------------|
| 商 法 入 門 講 座 | 居林 次雄著 | A 5・2,600円(〒310) |
| <small>改訂版</small> | | |
| 商 法 総 論 ・ 総 則 | 栗原 敏夫著 | A 5・2,472円(〒380) |
| <small>改訂版</small> | | |
| 商 法 総 則 ・ 商 行 為 法 | 青木 英夫著 | A 5・2,575円(〒380) |
| 商法の考え方・学び方 | 堀口 亘著 | 四六・1,400円(〒310) |
| 商 法 の 基 礎 | 倉澤康一郎著 | A 5・2,900円(〒380) |
| <small>三訂版</small> | | |
| 商 法 総 則 ・ 商 行 為 法 | 中島 史雄著 | A 5・2,575円(〒380) |
| 株 式 会 社 法 | 栗原 敏夫著 | A 5・2,987円(〒380) |
| 現代の株式会社法 | 大矢 息生著 | A 5・3,600円(〒340) |
| 会 社 法 | 青木 英夫著 | A 5・4,200円(〒380) |
| <small>新訂版</small> | | |
| 会 社 法 要 説 | 田邊 光政著 | A 5・3,300円(〒380) |
| <small>第四版</small> | | |
| 結 合 企 業 法 の 諸 問 題 | 青木 英夫著 | A 5・4,900円(〒380) |
| 株主総会・取締役・取締役会 | 岩城 謙二著 | 四六・1,700円(〒310) |
| <small>その法律問題の所在と考え方</small> | | |
| <small>これだけは知っておきたい</small> | | |
| <small>3訂版</small> | | |
| 新・手形小切手の常識 | 大矢 息生著 | 四六・1,800円(〒310) |
| 手 形 法 ・ 小 切 手 法 | 豊田悌助
足立武雄 共著 | A 5・2,884円(〒380) |
| 手 形 法 ・ 小 切 手 法 | 青木 英夫著 | A 5・1,800円(〒310) |
-

目次

日本経済の課題を読む

第1章 激しい変化の時代

1

世界と深く結びつく日本経済……………2

円高と内外価格差……………4

産業空洞化と規制緩和……………6

バブル後の金融破綻……………7

深刻化する財政危機……………10

日米の経済関係……………12

変革迫られる日本の企業……………14

国境なき時代の経済……………15

第2章 国際価格へのさや寄せ

19

“価格破壊”……………20

価格破壊は九三年ごろに始まった……………23

閉鎖的な日本市場を急激な円高が突き破った……………26

豊かな時代には、流通が主導権にぎる……………29

外国企業、対日売り込みに本腰…… 31

逆輸入が増える…… 33

流通の競争促進も一役買う…… 34

海外と競争しない分野に問題…… 35

第3章 円高、円安……

時々刻々変わる外国為替相場…… 38

米ドルは世界の基軸通貨…… 40

急激な円高は歓迎されない…… 42

ドルと円との売買がほとんど…… 43

為替変動にはリスクがつきもの…… 44

なぜ為替取り引きが行われるか…… 46

円高の背後にある経常収支の大幅黒字…… 48

ドル離れの危機…… 50

企業が悩む為替変動…… 51

第4章 日本経済の空洞化

九〇年代以降に顕著……………54

非製造業でも空洞化が進行……………56

空洞化を招いた理由……………57

円高でも輸出減らず……………59

東西対立解消後のメガ・コンペティション……………60

人件費などが安い途上国……………62

市場開放は必要……………63

系列のプラスとマイナス……………64

新しい製品、企業の登場が必要……………66

第5章 経済摩擦と市場開放

集中的な輸出が貿易摩擦招いた……………70

ダンピング訴訟……………71

半導体協定の特徴……………73

摩擦回避の現地生産が摩擦に……………74

カネにあかしたM&A……………76

第6章 日本産業のグローバル化

日本の経済構造改革を迫る……	77
外圧で進む経済構造改革……	80
攻められる立場にも……	82
日本に求められるリーダーシップ……	84

87

海外に浸透する日本ブランド…… 88

バブルの時代からグローバル化が深まる…… 89

非製造業もグローバル化が進む…… 92

M & Aの意味…… 94

日本の多国籍企業…… 96

海外事業の特徴…… 98

海外生産比率一〇％に…… 102

第7章 アジアの発展

東アジアの奇跡……	106
国境越えた地域経済圏……	107

105

東南アジア内部で投資が進む……………108

雁行形態的な発展……………110

東アジア発展の理由……………112

アジアの“日本化”……………114

APECとASEAN……………116

日本がイニシアチブを……………118

第8章 資産デフレ——バブル後遺症……………

金融機関が相次ぎ破綻……………124

地価、株価が上がり、財テク花盛りに……………126

土地総価額が米国の四倍に……………129

自由化などで金融機関にあせり……………131

どんなバブルもいつか破裂する……………132

含み益の減少……………134

金融機関などの破綻……………136

預金者保護で当面はペイオフせず……………138

土地の流動化が必要……………139

第9章 金融の自由化・国際化 143

政府規制にどっぷりつかっていた金融 144

業態が細かく分かれていた 145

シェア固定の護送船団行政 147

預貯金金利の自由化 149

金融商品の自由化 151

業務範囲の自由化 153

二つのコクサイ化 157

郵便貯金の肥大化 159

第10章 規制緩和 163

規制の緩和・撤廃と民間の商慣行改善 164

経済的規制と社会的規制 166

規制産業のコストは高い 168

経済活性化に新ビジネスが必要 170

豊かさが実感できず 171

閉鎖的な民間商慣行 173